

報告・協議2

令和元年度乳幼児期の教育・保育の充実に関する調査結果について

このことについて、別紙のとおり報告します。

令和2年3月25日

広島県教育委員会教育長 平川理恵

令和元年度乳幼児期の教育・保育の充実に関する調査結果について

1 調査の概要

1 調査の趣旨

全県的な乳幼児期の教育・保育の充実を図ることを目的として、県内の幼児の育ちの状況、幼稚園・保育所・認定こども園（以下「園・所」）や小学校・特別支援学校小学部（以下「小学校等」）及び家庭等の実態を把握し、園・所への支援や家庭教育への支援等、平成29年2月に策定した「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プラン（以下「プラン」）に関わる今後の施策の具体化に活用する。

2 調査の対象

- (1) 県内の全園・所（893園・所、「幼児の育ちの状況」の調査については150園・所を抽出）
- (2) 県内の園・所に就園している0～2歳児[※]及び年長児の保護者（約3,000人ずつ）
- (3) 県内の全公立小学校等（484校）
- (4) 県民（1,755人）

※ 0～2歳児の保護者を対象とした調査は新規に実施

3 調査期間

令和元年11月6日（水）～12月4日（水）

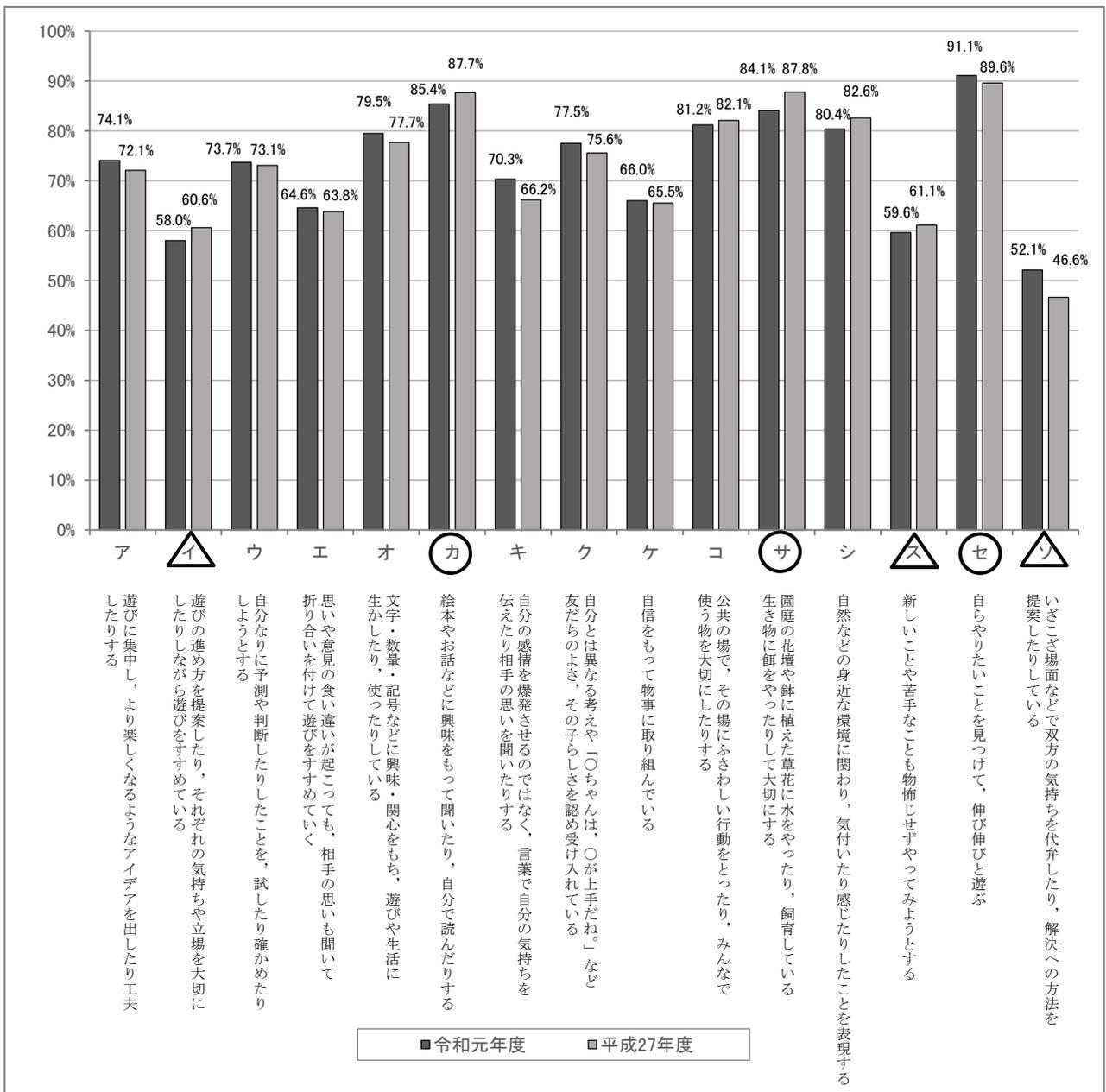
2 調査結果の概要

1 幼児の育ちの状況

- 幼児の育ちの状況について、年長児担任が「あてはまる」と回答した上位3項目及び下位3項目は次のとおりで、平成27年度調査と同様である。

(別冊 P10)

上位3項目	下位3項目
セ 自らやりたいことを見つけて、伸び伸びと遊ぶ	ソ いざこざ場面などで双方の気持ちを代弁したり、解決への方法を提案したりしている
カ 絵本やお話などを興味をもって聞いたり、自分で読んだりする	イ 遊びの進め方を提案したり、それぞれの気持ちや立場を大切にしたりしながら遊びをすすめている
サ 園庭の花壇や鉢に植えた草花に水をやったり、飼育している生き物に餌をやったりして大切にする	ス 新しいことや苦手なことも物怖じせずやってみようとする



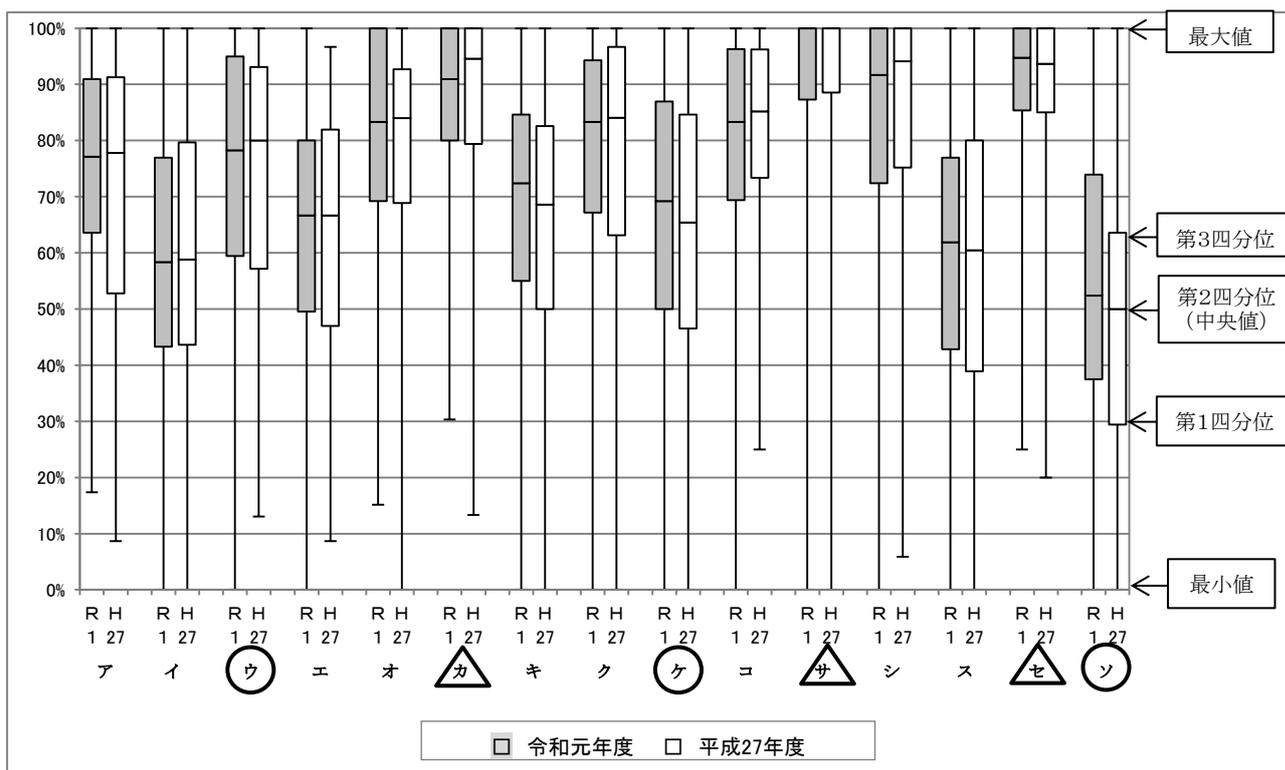
【図1 幼児の育ちの状況＜年長児担任：R1-H27＞】

- 同一の調査内容項目において、園・所ごとに幼児の育ちの状況をみると幼児の育ちに開きがみられる。開きが大きい上位3項目及び開きが小さい上位3項目は以下のとおりである。平成27年度調査と比較して、開きが大きい上位3項目のうち1項目と開きが小さい上位3項目は共通している。(別冊 P11)

項目	令和元年度	平成27年度
開きが大きい 上位3項目	ケ 自信をもって物事に取り組んでいる	ス 新しいことや苦手なことも物怖じせずやってみようとする
	ソ いざこざ場面などで双方の気持ちを代弁したり、解決への方法を提案したりしている	
	ウ 自分なりに予測や判断したりしたことを、試したり確かめたりしようとする	
開きが小さい 下位3項目	サ 園庭の花壇や鉢に植えた草花に水をやったり、飼育している生き物に餌をやったりして大切に	ア 遊びに集中し、より楽しくなるようなアイデアを出したり工夫したりする
	セ 自らやりたいことを見つけて、伸び伸びと遊ぶ	
	カ 絵本やお話などに興味をもって聞いたり、自分で読んだりする	

＜箱ひげ図の見方＞

- 園・所ごとの「あてはまる」の割合を昇順に並べ、小さい数値から1/4、1/2、3/4の位置を算出している。(箱の一番下が第1四分位、一番上が第3四分位を表し、箱内の線が第2四分位(中央値)を表す。)
- ヒゲの端は最大値、最小値となる。
- 第1四分位と第3四分位の間に、データの50%が含まれるため、箱の長さが長いほど、回答にばらつきがあるといえる。



【図2 幼児の育ちの状況＜園・所の分布状況：R1-H27＞】

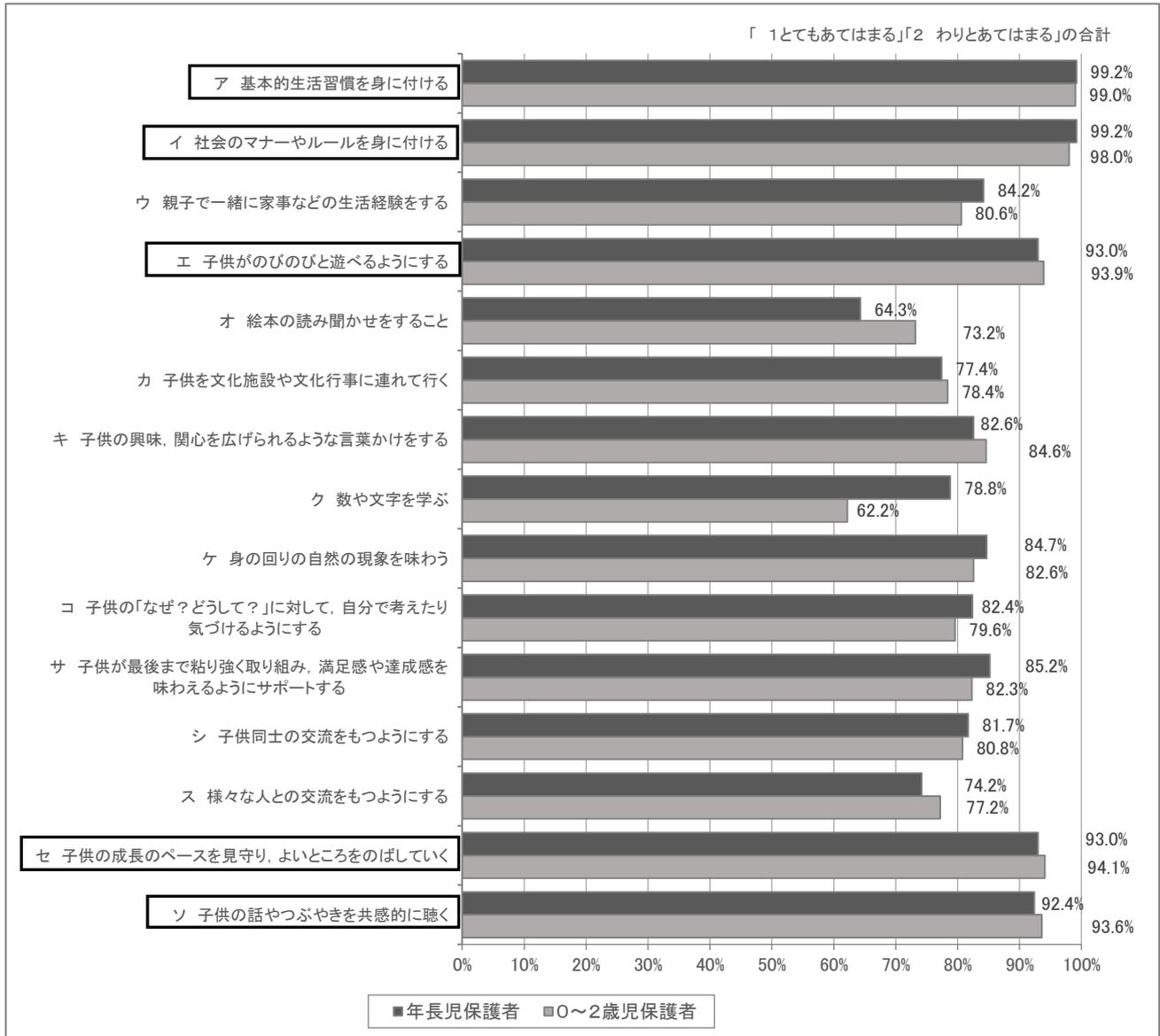
現時点での受け止め

- 幼児の育ちの状況(図1)及び幼児の育ちの状況の園・所の分布状況(図2)は、平成27年度調査と同じような傾向である。

2 保護者の子育て・家庭教育の状況

○ 家庭での心がけ^{*}について、90%以上の年長児・0～2歳児の保護者が「あてはまる」と回答している項目は、「ア 基本的な生活習慣を身に付ける」、「イ 社会のマナーやルールを身に付ける」、「エ 子供がのびのびと遊べるようにする」、「セ 子供の成長のペースを見守り、よいところをのばしていく」、「ソ 子供の話やつぶやきを共感的に聴く」である。(別冊 P16)

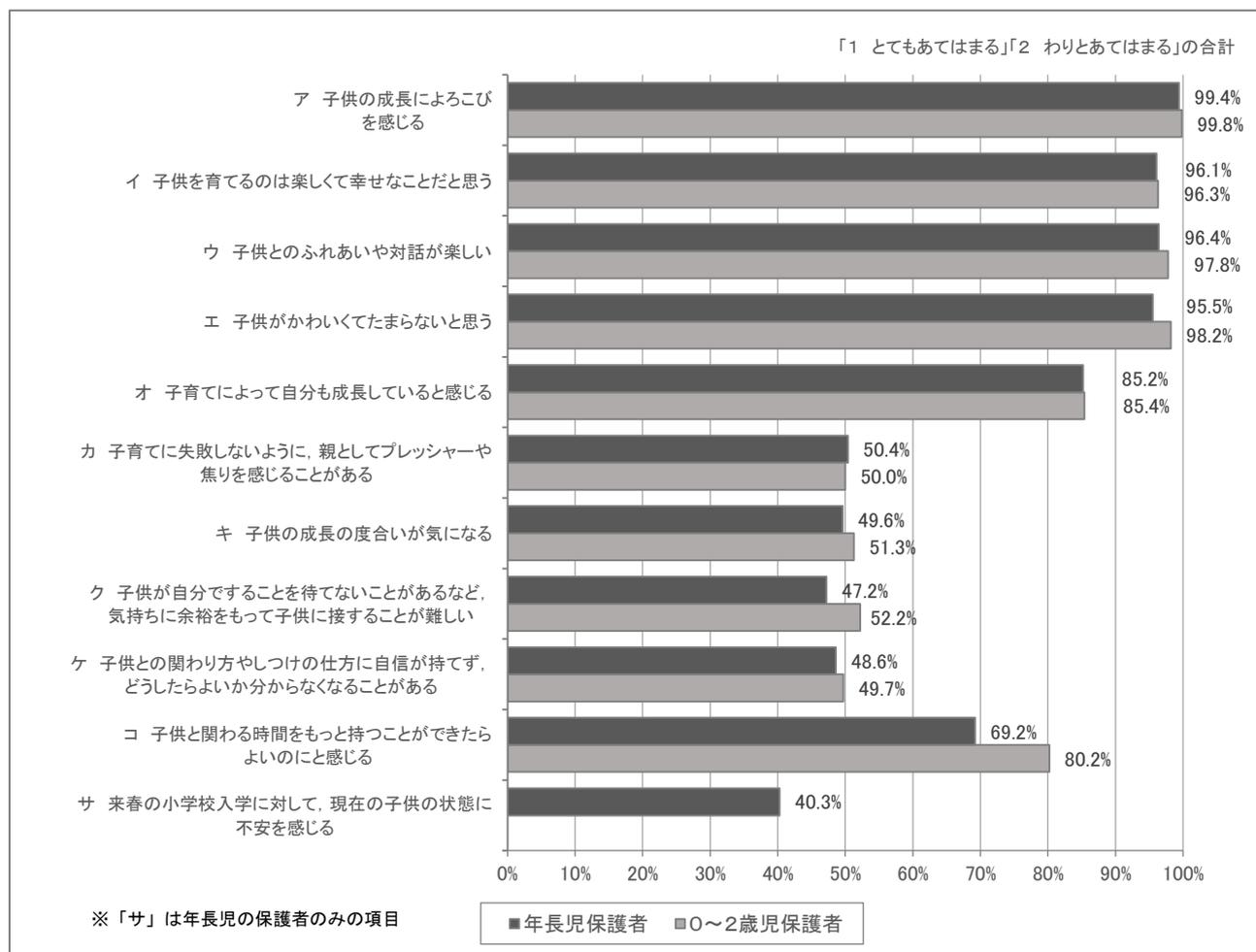
※ 「家庭での心がけ」…子育てや家庭教育で大切にしていること、心がけていること



【図3 家庭での心がけ<年長児・0～2歳児保護者>】

○ 子供を育てていてよかったと思うこと、負担に思うことや悩みについて、年長児・0～2歳児ともに99%以上の保護者が「ア 子供の成長によるこびを感じる」と回答している。

また、年長児・0～2歳児ともに95%以上の保護者が「イ 子供を育てるのは楽しくて幸せなことだと思う」と回答している一方で、50%以上の保護者が「カ 子育てに失敗しないように、親としてプレッシャーや焦りを感じることもある」と回答している。(別冊 P18)



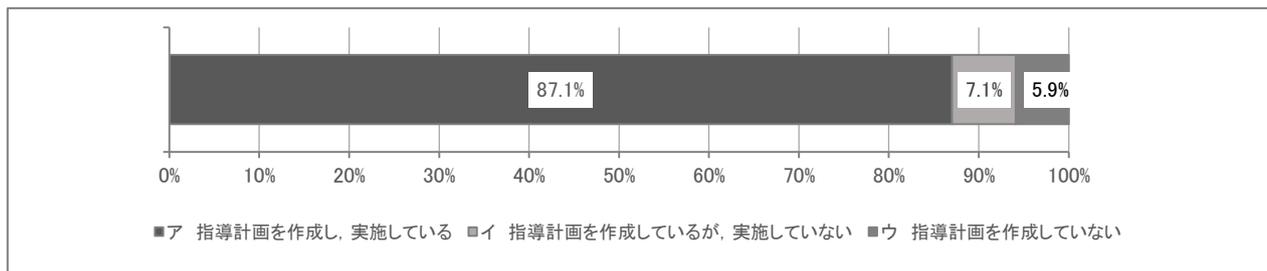
【図4 子育てで感じていること<年長児・0～2歳児保護者>】

現時点での受け止め

- 90%以上の保護者が「子供がのびのびと遊べるようにすること」「子供の話やつぶやきを共感的に聴くこと」などを心がけており、プランで示している「乳幼児期の遊びの大切さ」や「共感的な子育てスタイル」について意識している。
- 80%以上の保護者が子育てに対する肯定的な気持ちを持つ一方で、約50%の保護者が不安を感じていることもあり、妊娠期から子育て期まで切れ目のない保護者支援の充実が求められている。

3 園・所における教育・保育

- 主体性，遊び込む時間や環境を考慮した指導計画の作成，実施状況について，87.1%の園長・所長が「ア 作成し，実施している」と回答している。（別冊 P24）



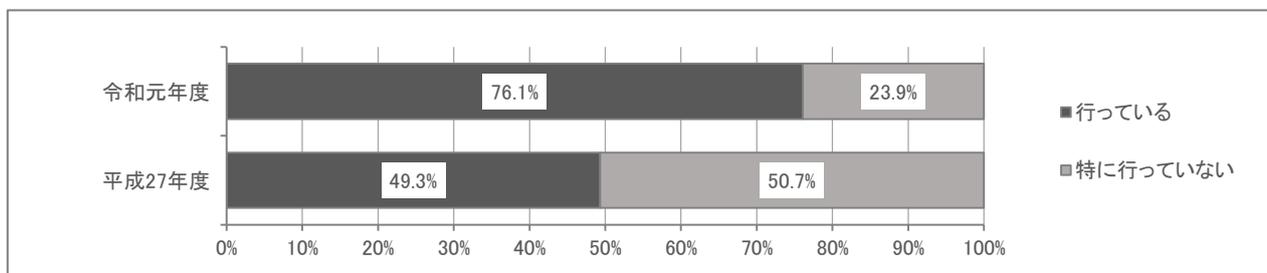
【図5 主体性，遊び込む時間や環境を考慮した指導計画の作成，実施状況<園長・所長>】

現時点での受け止め

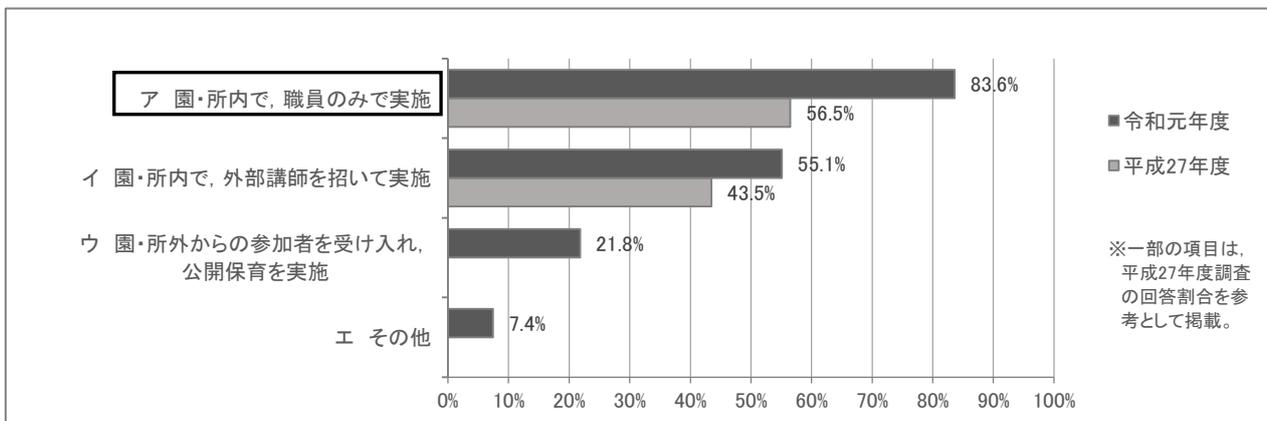
- 80%以上の園・所が，主体性や遊びの環境について考慮した指導計画を作成しており，遊びは学びと考える幼稚園教育要領等や県の乳幼児期の教育・保育について理解が進んでいると受け止めている。

4 資質向上のための取組

- 教育・保育について振り返り学び合う機会について，76.1%の園長・所長が「行っている」と回答しており，平成27年度調査と比較して26.8ポイント増加している。
その内容で割合が最も高い項目は，「ア 園・所内で，職員のみで実施」である。（別冊 P33）



【図6 振り返り学び合う機会の有無<園長・所長>】



【図7 振り返り学び合う機会の状況<園長・所長>】

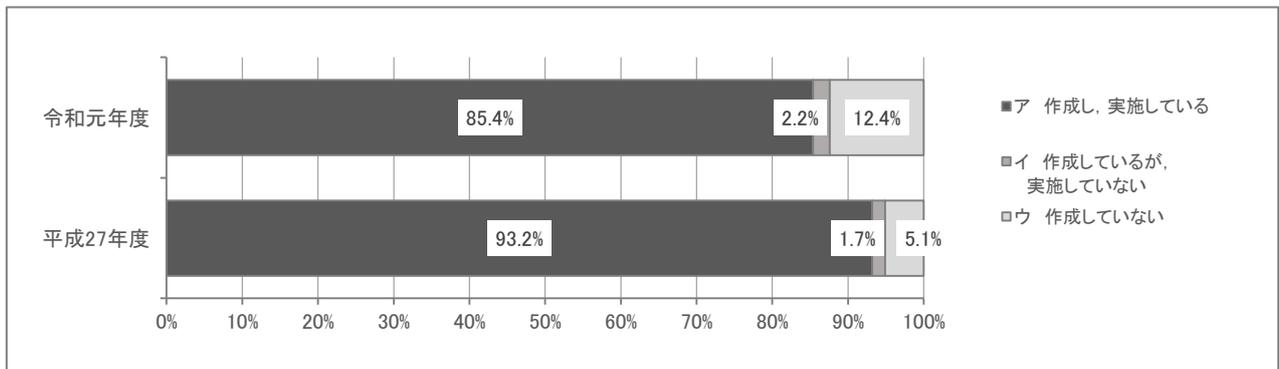
現時点での受け止め

- 平成 27 年度と比較して、振り返り学び合う機会を「行っている」との回答が増加しており、園・所の教育・保育の質や職員の専門性の向上に対する意識が向上していると受け止めている。

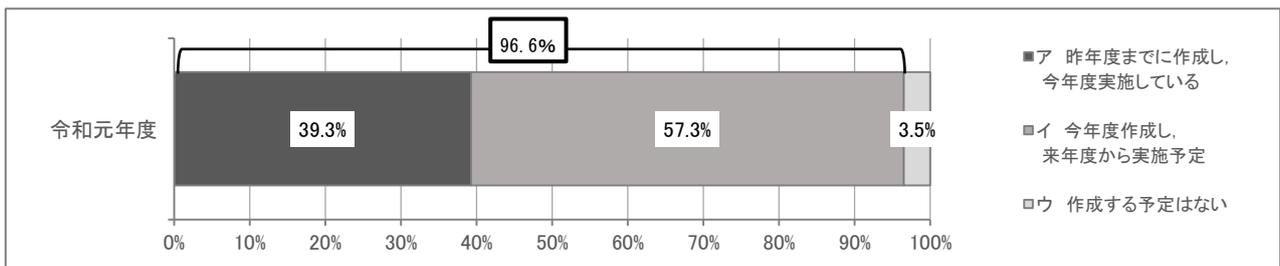
5 接続のための取組

- 接続カリキュラムの作成・実施について、85.4%の園長・所長が、「ア 作成し、実施している」と回答している。

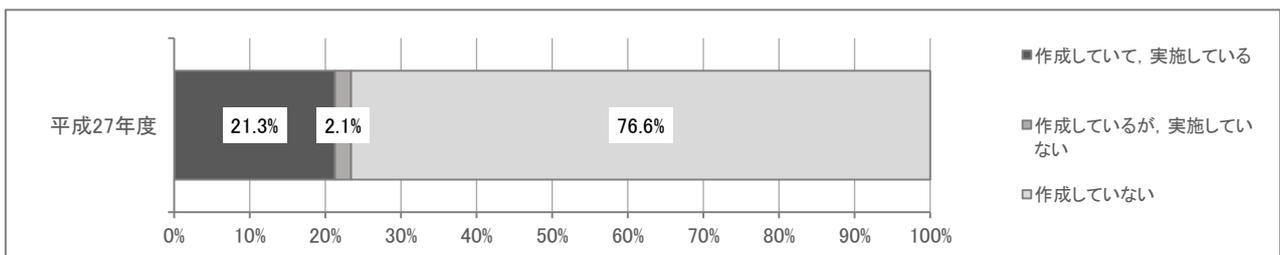
スタートカリキュラムの作成・実施について、39.3%の校長が、「ア 昨年度までに作成し、今年度実施している」と回答しており、平成27年度調査と比較して18ポイント増加している。「イ 今年度作成し、来年度から実施予定」まで含めると、96.6%である。(別冊 P38)



【図8 小学校入学を見通した年長児の指導計画の作成・実施状況<園長・所長>】

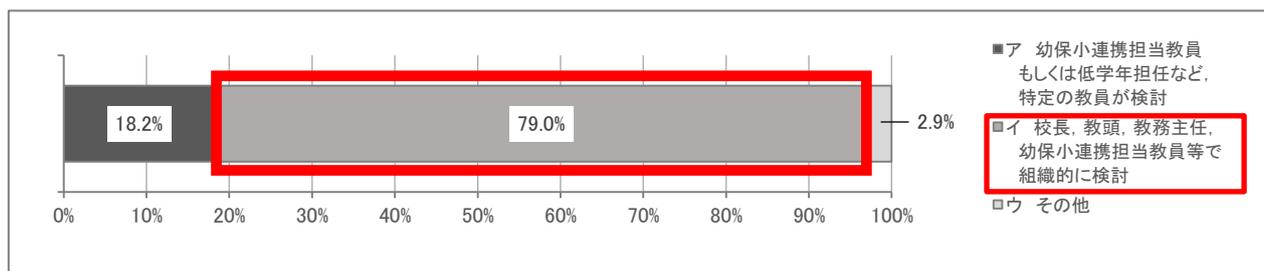


※ 作成する予定がない学校は、統廃合予定の学校、作成の必要がない学校等である。



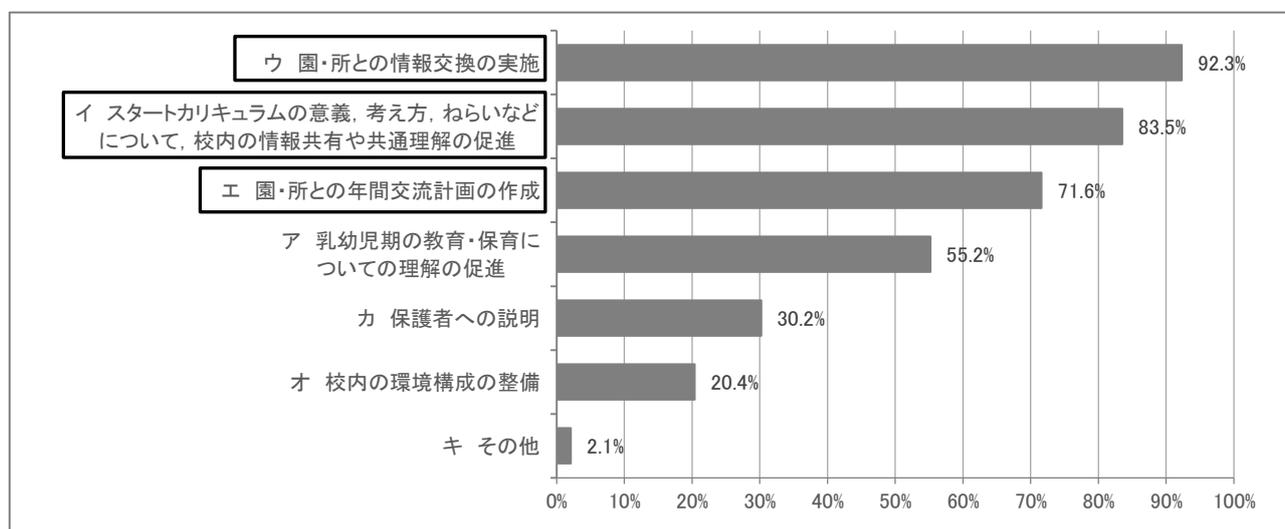
【図9 スタートカリキュラム作成・実施状況<校長>】

- スタートカリキュラム作成の検討体制について、79.0%の校長が、「イ 校長，教頭，教務主任，幼保小連携担当教員等で組織的に検討」と回答している。（別冊 P39）



【図10 スタートカリキュラム作成の検討体制<校長>】

- スタートカリキュラム作成に関わる取組内容について、校長が回答した上位3項目は、「ウ 園・所との情報交換の実施」，「イ スタートカリキュラムの意義，考え方，ねらいなどについて，校内の情報共有や共通理解の促進」，「エ 園・所との年間交流計画の作成」である。（別冊 P39）



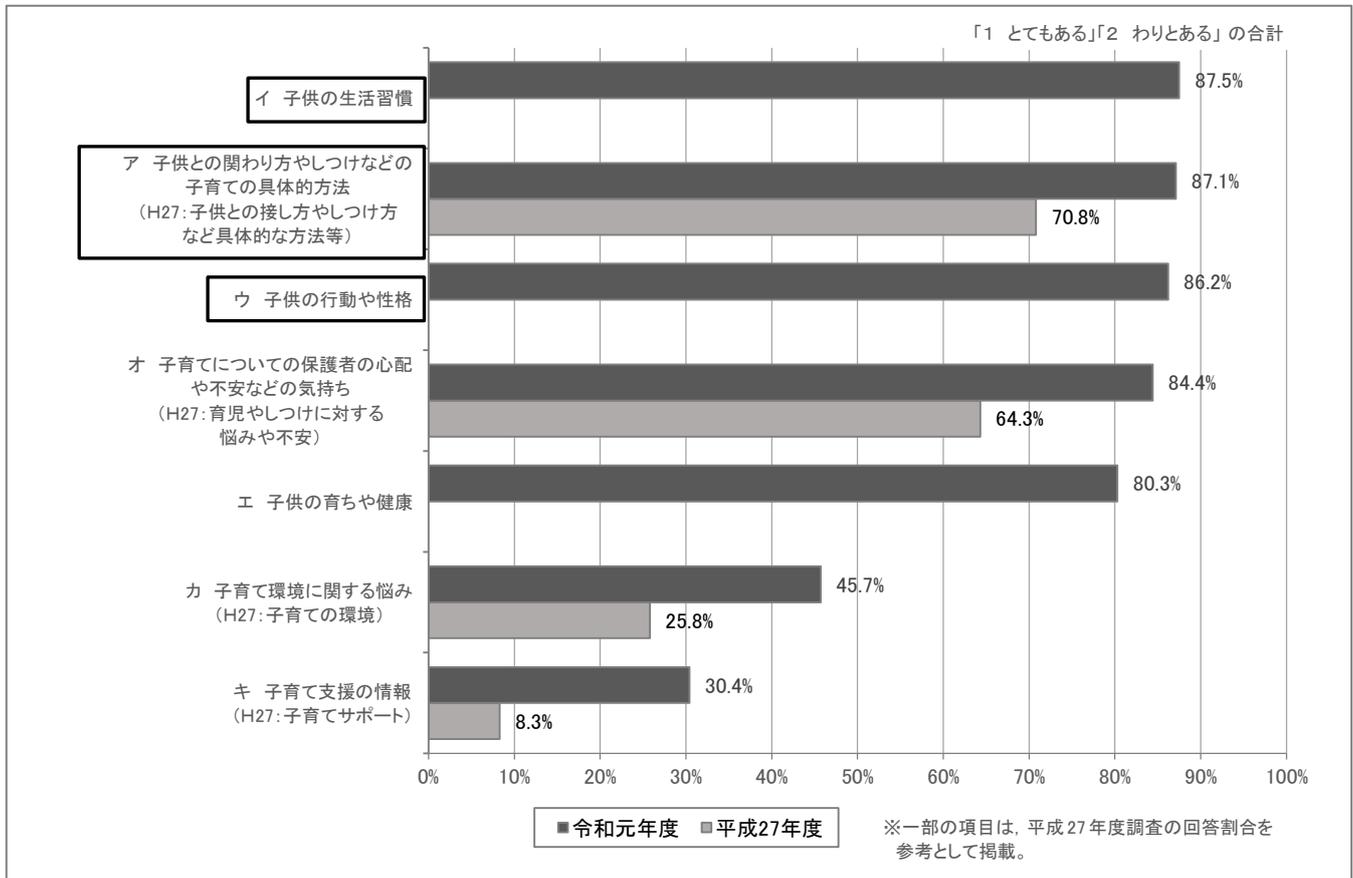
【図11 スタートカリキュラム作成に関わる取組内容<校長>】

現時点での受け止め

- 幼保小連携・接続のためのカリキュラムの作成・実施について、特に小学校等では来年度から新学習指導要領で作成・実施が求められていることから、取組が進んでいる。
- カリキュラム作成実施後も継続的な見直しが必要と受け止めている。

6 子育て支援

- 保護者からの相談内容について、園長・所長が回答した上位3項目は、「イ 子供の生活習慣」、「ア 子供との関わり方やしつけなどの子育ての具体的方法」、「ウ 子供の行動や性格」である。(別冊 P44)



【図12 保護者からの相談内容<園長・所長>】

現時点での受け止め

- 園・所における保護者からの相談内容は、「子供の生活習慣」「子供の行動や性格」など子供に関わるものから、子供との関わり方、子育てについての不安な気持ちなど保護者に関わるものなど様々であり、園・所における子育て支援の充実が求められている。

3 今後の方向性

本調査の結果について、県内の園・所や市町の担当部署、園・所の関係団体、ネウボラなどの子育て支援機関等をはじめ幅広く情報提供するとともに、園・所や家庭における教育・保育内容、園・所の教員・保育士等の研修の充実等や幼保小連携教育の推進、子育て・家庭教育支援の充実等に向けた取組を着実に実施することにより、「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランの目指す姿の実現に向けて、引き続き取り組んでいく。